

フリガナ		所属	大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程 理学専攻
氏名	K. K		物理科学 コース 1 年
派遣先名 (国名)	バーギシェ・ブッパタール大学 (ドイツ)		
派遣期間	(日本出発日)		(日本到着日)
	平成 29 年 10 月 4 日 ~		平成 30 年 2 月 10 日
指導教員 氏名	出口 哲生		㊟

《留学前、留学後で変化したこと》

初めての海外経験となった今回の留学で変化したことは、英語を学ぶ姿勢と異文化への理解の2つです。

1. 英語を学ぶ姿勢について

英語をなぜ勉強するのか？と考えた時、今までは試験で良い結果を出すためだけだと思っていましたが、今回の留学で非日本語話者と話すため、という新しい視点を得ました。英語を勉強するモチベーションの変化には、ある経験が元になっています。

ブッパタール大学で受けていた講義の1つで、出された課題をペアで一緒にやることを勧めていた講義があり、私はその時たまたま隣に座っていたイラク出身の人にペアになってくれと頼みました。なぜなら私はこの留学の目標の1つとして、英語で議論するということを定めていたからです。また、この講義で出される課題については私にとって馴染みのある内容でしたが、ペアになった彼女にとってはそうではないようでした。しかし、初めは私の英語力のせいで私たちの話し合いはたどたどしいものでした。彼女の間違った答えに対して、No! と答え、どうして間違っているのかを紙に数式を書きながら説明していました。「講義の英語は理解できるのに、どうして英語で説明するとなると全然できなくなるんだろう。もっときちんと説明できるようになりたい」と思い、ネットに上がっている講義のビデオを予習も兼ねて見ながら話し合いで使えるようなフレーズをノートにメモし、そのフレーズを使いながら話し合いをするようになりました。

最後のほうの話し合いは10月の頃と比べると格段に進歩しました。課題の内容だけでなく、人に何かを伝えたいと切望し、これを動機に英語を勉強しようと思ったことは今までありませんでした。また、途切れとぎれの英語を忍耐強く聞いてくれた彼女にはとても感謝しています。

2. 異文化への理解について

ドイツに行く前、私は外国人は異なる文化に生きているし、価値観が合わないものだと思っていました。たしかに、ドイツのスーパーで物を買う、レストランで食事をするなど日常生活を送る上でドイツと日本では異なる点がたくさんありました。しかし、外国人だから価値観が合わないということはありませんでした。今回の留学で知り合った人たちの数名と、好きな音楽や食べ物、ものの考え方などの価値観が合うことがあり、とても驚きました。ネットの普及によって、好きな音楽等が同じということはありませんが、異なる文化圏で同じ価値観をもつ人と出会えるのは不思議な感覚でした。それとともに、外国人とは価値観が合わないというのは偏見だったと反省しました。

《今後のビジョン》

私は修士を卒業した後、博士後期課程に進学しようと思っています。数年後には国際学会で発表することを目標に研究を続けていきたいと思っています。

また、このような機会を与えてくださったことについても感謝しています、ありがとうございました。